

## 船舶事故調査報告書

平成28年3月17日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 庄司邦昭（部会長）  
 委員 小須田 敏  
 委員 根本美奈

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成27年1月19日 11時10分ごろ～20日 08時43分ごろの間）
発生場所	不明（北海道苫小牧市苫小牧港）
事故の概要	漁船第十八丸政丸は、無人で発見され、船長は行方不明となった。
事故調査の経過	平成27年1月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が行方不明のため、行わなかった。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第十八丸政丸、3.9トン HK3-94025（漁船登録番号）、個人所有 10.05m (Lr) × 2.85m × 1.09m、FRP ディーゼル機関、80.91kW、昭和59年2月6日 第200-25093号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 67歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成11年4月20日 免許証交付日 平成26年3月31日 （平成31年4月19日まで有効）
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、水温 約6℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、苫小牧港でつづがる漁を行っていた。 僚船の船長は、平成27年1月19日11時10分ごろ、無線で本船と交信した際、本船船長から、漁具を1本揚網してから帰港する旨の返答を受けた。 船長の家族は、夕方に帰宅したところ、船長のために用意しておいた食事に手が付けられていなかったことを不審に思ったが、22時ごろ自宅付近からふだん本船が係留している港の方を目視したところ、岸壁付近に照明が点灯しているように見えたので、船長が、帰港後に

	<p>何かの作業をしているので帰宅が遅れているものと思い、就寝した。</p> <p>船長の家族は、翌朝になっても船長が帰宅しないので、親族に連絡した。</p> <p>親族は、20日07時35分ごろ、本船が帰港していないことを所属の漁業協同組合に通報した。</p> <p>本船は、僚船、救難所所属船及び海上保安庁による捜索が行われ、08時43分ごろ、苫小牧港東港地区内防波堤（B）中央部の西方200m付近において、無人状態で発見されたが、船長が発見されずに行方不明となった。</p> <p>（付図1 事故発生場所概略図 参照）</p>
その他の事項	<p>本船は、発見時、機関が運転状態で、右舷船首部の揚網機には油圧がかかっていたものの、運転スイッチが断の状態、ドラムには漁具が巻かれ、海中には揚収中の漁具が残された状態で停留していた。</p> <p>本船は、船体に他船と衝突したような痕跡は認められなかった。</p> <p>船長は、ふだんから1人で操業を行い、13時ごろに帰港していた。</p>
<b>分析</b> 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>船長は、行方不明となった。</p> <p>本船は、苫小牧港において、19日11時10分ごろ、船長が、僚船の船長と無線交信を行った後、20日08時43分ごろ、無人状態で停留しているところを発見されたことから、この間において、船長が落水した可能性があると考えられるが、落水した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長の救命胴衣の着用状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、苫小牧港において、船長が落水したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小型漁船は、僚船と連絡を取れる手段を備えておくことが望ましい。</li> </ul>

付図1 事故発生場所概略図

